

「ファンタジア！ファンタジア！ー生き方がかたちになったまちー」

ワークショップ企画

『新しい対話のためのプラクティス』取材のご案内



これまで当たり前だと思っていた考えを解きほぐす“対話”を生み出し、地域の文化資源の活用から“学びの場”を創出するアートプロジェクト「ファンタジア！ファンタジア！ー生き方がかたちになったまちー」より、7・8月にアーティストと行う2つのワークショップ「新しい対話のためのプラクティス」のご案内です。

7月27日(土)より3週連続で行う「まぶたのうらの踊り」(講師：関川航平)は、言葉で表現すること、表現しきれないことについて考えていきます。8月23日(金)・24日(土)・25日(日)に行う「ゆびのかたりて」(講師：佐藤史治+原口寛子)は、親子や兄弟、友人など2人組で行うワークショップで、相手と自分の思い出から新しい物語をつくります。

他者とのコミュニケーションの取り方や、自分自身と向き合い考えを深める方法について、気鋭のアーティストの思考を手がかりに参加者のみなさんとワークショップ形式で、模索していきます。

日	時	「まぶたのうらの踊り」(講師：関川航平) 2019年7月27日(土)、8月3日(土)、10日(土) 各日13:00～17:00
		「ゆびのかたりて」(講師：佐藤史治+原口寛子) 2019年8月23日(金) / 24日(土) / 25日(日) 各日14:00～16:30
会	場	sheepstudio (東京都墨田区京島3丁目20-9)
ア	ク	京成曳舟駅から徒歩10分、曳舟駅から徒歩15分
主	催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人うれしい予感

## 1) 企画概要

---

普段何気なく使っている言葉や感覚、友達や家族との日常的な会話を、いつもとは違った方法で見つめ直してみる。ちょっとした工夫から、あの人や自分自身の見たことのなかった一面が見つかるかもしれません。アーティストが考えた2つのワークショップを通して、これまでの当たり前を解きほぐすことを試みます。

### 2-1) まぶたのうらの踊り

---

認知や言語に着目した制作活動を行っているアーティストの関川航平によるワークショップです。ある言葉を聞いた時に、その言葉に関連したイメージが思い起こされていく過程や、同じ言葉でも人それぞれ想起するイメージは異なります。そのようなことについて、書き言葉と話し言葉の違いを意識しながら黙読や音読したり、物を観察してその様子を文章で表現しながらじっくり考察していきます。最終日は言葉が想起するイメージだけでダンスを作ることにチャレンジします。

日時：7月27日(土) 13:00-17:00 見たものを言葉に置き換える  
8月3日(土) 13:00-17:00 言葉からイメージを組み立ててみる  
8月10日(土) 13:00-17:00 言葉だけでダンスを踊ってみる

対象：3日間ご参加いただける方  
18歳以上

定員：10名(先着順)

講師：関川航平

### 2-2) ゆびのかたりて

---

協働作業を通じて起こる偶然や対立をテーマに制作するアーティストユニットの佐藤史治+原口寛子によるワークショップです。参加者も2人1組で参加してもらいます。オリジナルの指人形を使って、一緒に参加した相手の思い出と自分の思い出を掛け合わせながら、新しい物語をつくってみます。2人のノンフィクションな思い出が混ざり合うことでつくられたフィクションを指人形に語らせることで、普段は話しくかった経験も話せるようになるかもしれません。こちらのワークショップはお子さまも参加しやすい内容となっています。

日程：8月23日(金)、24日(土)、25日(日) 各日14:00-16:30 (いずれかのお日にちをお選びください)

対象：親子、兄弟、友人、カップルなど、2人1組でご応募ください。

※18歳未満の方は、保護者の同意が必要になります。また、10歳未満の方は原則保護者の同伴が必要です。

定員：各回4組8名(先着順)

講師：佐藤史治+原口寛子

### 3) アーティスト情報

「まぶたのうらの踊り」講師アーティスト

関川航平

1990年宮城県生まれ。美術作家。パフォーマンスやインスタレーション、イラストレーションなどさまざまな手法で作品における意味の伝達について考察する。近年の主な個展に2017年「figure/out」(ガーディアンガーデン、東京)など。グループ展に2018年「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」(国立国際美術館、大阪)「漂白する私性 漂泊する詩性」(横浜市民ギャラリー、神奈川)ほか。



『強く移動する』(2017年) パフォーマンス  
撮影:市川勝弘  
画像提供:スパイラル/株式会社ワコールアートセンター



『以外の見る』(2017年) パフォーマンス  
画像提供:BankART1929

「ゆびのかたりて」講師アーティスト

佐藤史治+原口寛子

2011年に結成した2人組のアーティストユニット。対話のはじまりである「2人」の間から生じる対立やその解消、協調に関心を持ち、作品制作を行う。場所に触発された遊びや、好奇心による行為の共同作業、すでにある撮影技法や編集方法のチープな転用や応用などをもとにした映像インスタレーション作品を主に発表している。近年の展示に、2018-2019年個展「たそかれ」(水戸のキワマリ荘、茨城)、2017年「第6回新鋭作家展 影⇄光」(川口市立アートギャラリー・アトリア、埼玉)など。



《明日の予報》(2016年)



《アイシャドー》(2017年)

## 4) ワークショップ申し込みについて

---

参加費：無料

申し込み：右記 QR コードのフォームよりお申し込みください。

\*「info@fantasiafantasia.jp」からのメールを受信できるように設定してください。

\*個人情報は厳重に管理し、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。

\*内容は変更になる場合があります。予めご了承ください。



## 5) 「ファンタジア！ファンタジア！—生き方がかたちになったまち—」とは

---

「ファンタジア！ファンタジア！—生き方がかたちになったまち—」は、地域の文化的な生態系の変化がそれぞれの営みを豊かにする循環を目指すことで、街をひとつの“学びの場”へと見立てていくプロジェクトです。

東京都墨田区北部（以下：墨東エリア）は、2000年代初頭の住民主導のアートプロジェクトなどがきっかけとなり、現在では多くのアトリエやオルタナティブ・スペースが集まる地域となっています。近年では大学誘致、耐震対策、駅前開発といった街の変化が目立つようになってきましたが、墨東エリアはこうした状況に対して、大きな計画と地域の文化資源の接触に対して独特のテンポ、丁寧さを保ってきました。

前述の変化の中でもゆるやかな空気を保っている街そのものの特性とこの街に集う人々の文化的な生態系と、区内外のアーティストや研究者など専門家のアクションが交わる状況を“学び”と捉えます。個々人の意思でしなやかに変化する墨東エリアで創造される“学び”を通して、地域内部の関係性をやわらかくする機会をつくり、未来のまちをかたちづくる萌芽を育てることを目指します。

※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

## 6) 東京アートポイント計画とは

---

東京アートポイント計画は、地域社会を担う NPO 法人、一般社団法人など非営利型の組織とアートプロジェクトを展開することで、無数の「アートポイント」を生み出す、東京都とアーツカウンシル東京による事業です。

日常の営みに穏やかに寄り添い、まち・人・活動をつなぐアートプロジェクト。東京アートポイント計画では、平成 21 年度から現在(平成 30 年 4 月)までに、NPO を中心に 45 団体と 36 件のプロジェクトを共催してきました。本事業で目指すのは、日常や社会に芸術文化が根付き、長期的な東京の魅力創造につながっていくこと。そのために、アートプロジェクトを担う人材の育成や活動基盤の整備も重視しています。

## 取材申込み・お問い合わせ先

ファンタジア！ファンタジア！事務局

メール :info@fantasiafantasia.jp

電話 : 090-9328-1000 (青木)

ウェブ : <https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/what-we-do/creation/hubs/fantasia-fantasia/35008/>

Facebook : <https://www.facebook.com/FantasiaFantasia.SumidaCity/>

※最新情報は Facebook ページをご確認ください。